2026 年度 IDE 東北支部大学セミナー実施要項

スマートシュリンク時代における地方大学の挑戦

急速な少子高齢化と 18 歳人口の激減に伴い、2040 年には大学進学者数が現在の約 7 割（約 46 万人）に減少すると予測され、特に東北をはじめとする地方の小規模大学や私立大学は深刻な存立危機に直面しています。中央教育審議会が掲げる「知の総和の向上」に向け、高等教育規模の適正化を進めつつ、地方におけるアクセス確保と必要な人材育成の機会を維持することは、地域社会の存続に関わる喫緊の課題です。

一方、修学支援の拡充と一体で進む高校教育改革では、「N-E.X.T.ハイスクール構想」やグランドデザインのもと、文理横断・探究的な学びの充実や専門高校の高度化が進められています。AI 時代の「問いを立てる力」や「多様な他者と協働する力」の育成を図り、従来の文系偏重と将来の産業構造ギャップを解消すべく、高校・大学・産業界・自治体が一体となった教育革新が強く求められています。

そこで本セミナーでは、東北地方の国公私立大学の生存戦略と地方創生の可能性について多角的に考察します。基調講演では、データに基づく地方大学の存立可能性と対応策や、高校教育改革のグランドデザインと大学への期待をご講演いただきます。続く話題提供では、地域創生を牽引する国立大学の使命、共学化と時代の要請に応じた新たな教育、自治体・地元産業界と結びついた地域連携の実践事例を共有します。さらに、パネルディスカッションでは、東北をはじめとする地方における高等教育の持続可能性と具体的対応策について議論を深めます。

人口減少の不可避な試練を「知の高度化」と「地域イノベーション」の契機として捉え直し、高等学校・高等教育機関・自治体・企業が Win-Win で若者を育てる持続可能な高等教育モデルを、東北の地から描き出すことを目指します。

関係者の皆様の積極的なご参加を期待しております。

■日　　時：2026 年 11 月 27 日（金）14:00〜17:00
■形　　式：ハイブリッド開催（来場／Zoom によるオンライン配信）
■対面会場：東北大学川内北キャンパス 教育・学生総合支援センター 東棟 4 階 大会議室

■プログラム

全体司会：小形　美樹（仙台白百合女子大学人間学部グローバル・スタディーズ学科教授）

パネルディスカッション司会：杉本和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構教授）

齋藤渉（東北学院大学高等教育開発室准教授）

14:00～14:05

開会挨拶：　冨永　悌二（東北大学総長，IDE 大学協会東北支部長）

14:05～14:15

趣旨説明：　齋藤　　渉（東北学院大学高等教育開発室准教授）

14:15～14:45

基調講演 1　田村　　秀（長野県立大学グローバルマネジメント学部教授）

「地方大学を巡る環境の変化と対応策について」

14:45～15:15

基調講演 2　寺島　史朗（文部科学省高等学校振興課長）

「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）について」

15:15～15:30

話題提供 1　南谷　佳弘（秋田大学学長）

「地方創生における秋田大学の使命」

15:30～15:45

話題提供 2　加藤　美紀（仙台白百合女子大学学長）

「共学化へのチャレンジ」

15:45～16:00

話題提供 3　高橋　　聡（岩手県立大学理事・副学長（教学担当））

「公立大学の役割再定義と展開」

16:00～16:05　（休憩）

16:05～16:55

パネルディスカッション

コメント：　佐々木　啓一（宮城大学学長）

16:55～17:00

閉会挨拶：　蒔苗　耕司（宮城大学副学長）